

福寿康居家康复護理機構（1/5）

（6）福寿康居家康复護理機構

福寿康居家康复護理機構（福寿康居宅リハビリケア機構）が運営している通所介護施設を視察した。当機構は上海市に合計12か所の拠点、医療護理センター8か所、デイサービス5か所、入居型介護施設1か所を運営している。年間利用者数は延べ30万人以上である。

①施設の概要

日本での留学・就職経験があるCEOが2011年に上海で日式介護事業を開始した。今では、上海市民政局、上海社会科学院（シンクタンク）等から高い評価を得ている。サービス内容は、日本式デイサービス、訪問入浴、認知症介護、居宅訪問介護、訪問看護ターミナルケア、福祉用具の選定とレンタル、高齢者向けのコンシェルジュサービス、ITを活用した安否確認、バイタルチェック、睡眠管理、健康管理全般であり、中国特有の中医的な概念、生活習慣・文化と融合している。日本でいうデイサービスの余暇活動では、囲碁やカードゲームなどが行われていた。訪問介護担当スタッフの説明によれば、上海戸籍の70歳以上で、上海職工基本医療保険加入が施設利用条件とのことである。

②リハビリのサービス内容

サービス対象は、軽度は毎週3回、中度は毎週5回、重度は毎週7回が上限としている。基本サービスは身体介助的なサービスと医療的介護サービスである。身体介護は1時間6.5元（110円）、医療的介護は1時間8元（140円）である。リハビリ室では、リハビリ職員によるリハビリがベッド上で行われていた。リハビリは、1回40元（680円）、10回セットは300元（5,100円）で診療時間各20分である。以前は、1回50元（850円）、12回480元（8,200円）だったようだが、価格改定の告示が掲示されていた。

福寿康居家康复護理機構 (2/5)

③設備と運営の内容

施設内の事務所は、各種相談やサービス案内を行う居宅介護支援事業所や相談室の機能を持つ。研修室では、スタッフの研修が行われており、プロジェクターを投影しながらの講義が行われていた。指定管理、小規模多機能のような施設だが、機器はプロジェクターや大型モニターなど、先進的な設備が見られた。歩行補助具は、押し車、歩行器（ブレーキ付）、リハビリ用の階段昇降の機器もあった。散歩ができる屋上庭園も整備されている。休憩室もあり、大型ソファで休むことができる。日本では静養室でベッドや畳に横になることが多いが、中国の高齢者は昼寝（仮眠）をする習慣がある。多機能健身房では、講師（ボランティア）による太極拳が行われていた。受付カウンターの横には、自動のアルコール噴霧器があった。手洗いも衛生的で、ペーパータオルストッカー、ハンドドライヤーが設置されていた。トイレでは洋式便器の両サイドに手すりが設置されていた。介護用トイレは施錠されていたが、要介護者なので必ずスタッフが同行するので通常は施錠している、とのことだった。地域住民のための施設ということもあり、子どもの姿も見られた。厨房サービスは別の民間企業への委託であり、一部ブースを使って、朝食用に饅頭などを販売している。若者は外食志向であるが、高齢者は自宅で朝食を取るので、テイクアウトすることが多いとのことだった。

福寿康居家康复護理機構 (3/5)

図表・24 福寿康(居宅訪問センター)



リハビリテーション・ルーム



研修室



手すり付きトイレ

福寿康居家康复護理機構 (4/5)



手洗い



受付周辺

出所) 以上、上海調査団



歩行トレーニング

福寿康居家康复護理機構 (5/5)



歩行補助具



休憩室



健康増進の多目的ルーム

出所) 以上、上海調査団